

平成 22 年 6 月度第 1 回街づくり委員会議事録

日時：'10-6-3（木）19：30～21：30

場所：平野市民センター会議室

出席者：雨宮、橋本、中井、戸所、奥村、竹吉、杉本、川上、杉中、西村、  
倉橋、乾

議事内容：

1. 近江鉄道との面談結果と今後の対応について

5 月 25 日に地域公共交通活性化協議会事務局のアレンジにより、近江鉄道との話合いが実現した。この席でわが街つくる会では平野学区の交通利便性向上のため、近江鉄道、行政と連携した新たな取り組みが出来ないか、種々の視点から意見交換した。しかし、具体化に向けてのヒントになるものもなく第 1 回目の会談は終了した。この間の報告を行った上で、今後の進め方について議論し、各委員から以下の意見が出された。委員会ではまだ結論を得るには至っておらず引き続き議論を続ける。

- ・近江鉄道の考え方は「儲からない事業はやらない」との視点に基くものばかりで、連携は難しい。
- ・近江鉄道の発言は従来の考え方を踏襲したもので前向きなものは全くない。我々の狙うバス運行は不可能と判断する。現在の状況下では自主運営によるバス運行の取り組みは時期尚早で、一度中断したらよい。
- ・あきらめるのはまだ早い。運行経費等の調査をもっと行うと共に、当方のビジョンを説明して行けば、話合いの余地はあると思う。
- ・地域住民との話し合いからは、バス運行への熱い期待が出てくる。住民と連携した取り組みは継続すべきだ。
- ・近江鉄道との話合いの目的は、国の補助を得て来年度に実証運行を行うための具体的計画を策定するためにある。当面の課題への対応と将来対応とは分けて議論すべきだ。また、近江鉄道が駄目なら他のバス会社との連携も考えてみたらどうか。例えば大石地区では京阪バスと交渉し、1 日 4 便の新規迂回ルートを確保したとの情報もある。
- ・バス運行に拘らず、デマンドタクシー等の手法も考えてみたらどうか。
- ・わが街つくる会の目的は街の活性化である。原点に戻って街づくりを優先し、資金を得てバス運行を考えてみることにしたらどうか。
- ・行政の地域公共交通の活性化に対するポリシーが見られない。活性化協議会の会長や副会長にもう一度真意を確認し、その上で平野学区から新しい公共交通の在り方を提言してみたらどうか。

2. 学会誌「交通科学」への投稿依頼とその対応について  
追手門学院の東教授より、大阪交通科学研究会が発刊する「交通科学」への投稿依頼が、大津市交通・建設監理課を通して雨宮会長宛にあった。立命館大学の塚口教授から「わが街つくる会の取り組みは国内外で大変注目されており、貴重な実践事例である」との紹介を得たとのこと。バスの自主運行計画を立てるに至った経緯、計画内容、今後の展望等を執筆して欲しいとのことであった。本件への対応を委員会で議論したが、我々の取り組みは当初より大きく変わってきており、原稿執筆は適当ではないとの意見が大勢を占め、お断りすることとした。
3. 街づくりイベントについて  
西武、パルコが今秋10月31日にハロウインのイベントを計画している。膳所駅前商店街も共催の申し入れを受けている。本企画はまさに街の活性化につながるものであり、わが街つくる会もこれに参画し本イベント盛り上げて行くことを委員会確認した。今後中井委員が中心となって推進していくこととした。
4. 平成22年度平野学区自治連の活動テーマへの対応について  
橋本委員より、先般の自治連定例会で平成22年度に以下の4つ委の員会が設置するとの説明があったことが報告された。
  - ① 膳所橋上駅、バリアフリー委員会
  - ② 地上デジタル化委員会
  - ③ 山の手委員会
  - ④ 自治会合併委員会これらの活動テーマはわが街つくる会での活動とも重複しており、今後自治連との情報交換を密にして行くことを確認した。
5. 次回委員会の開催について  
次回委員会は6月17日（木）19：30より開催します。ご出席下さい。

以上